

5. 家族関係

NO	属性	年齢	心がけ	今後に望むこと
1	学者生活向学 シルバー	73	・食事を一緒にする。	・特になし
2	仕事一筋いきいき シルバー	71	・干渉し合わない ・別居家族と同居家族1回/2週集合し、食事をする	・家族が近くに住む(現状通り) ・1回/1~2週家族が集まる(現状通り)
3	話題活発いきいき シルバー	69	・思ったことは口に出して言い合う	・家族が近くに住む(現状通り) ・1回/1~2週家族が集まる(現状通り)
4	会社役員リタイヤ シルバー	67	・日常ではすれ違うので、旅行などで話をする機会をつくる	・親離れ、子離れした関係
5	良妻賢母内助の巧 シルバー	61	・特になし	・子供に依存しない
6	大家族元大黒柱 シルバー	77	・干渉し合わない	・干渉し合わない関係(現状通り)
7	知的生活エンジョイ シルバー	80	・補聴器を使用し、誤解のないコミュニケーションをする	・現状で充分
8	家事現役 シルバー	82	・家族に喜ばれる料理を作る ・耳が遠いので、余計なことを言わず、何度も聞き返さない	・面倒をかけたくない
9	趣味仕事悠々自適 シルバー	76	・特になし	・特になし
10	趣味家事悠々自適 シルバー	70	・家族全員オープンに話す	・特になし

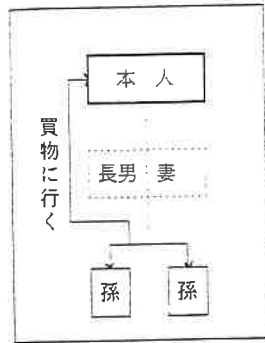
■日常のコミュニケーションの心がけ

- ・「“食”を共有する」「オープンに話す」など日常的にコミュニケーション積極派と、「干渉し合わない」と衝突の原因となるコミュニケーション消極派の2派に分かれる。
- ・難聴に悩むシニアシルバー2名のうち1名は、補聴器使用でコミュニケーションに積極的。もう1名はできるだけ余計なことを話さないと消極的と2派に分かれる。

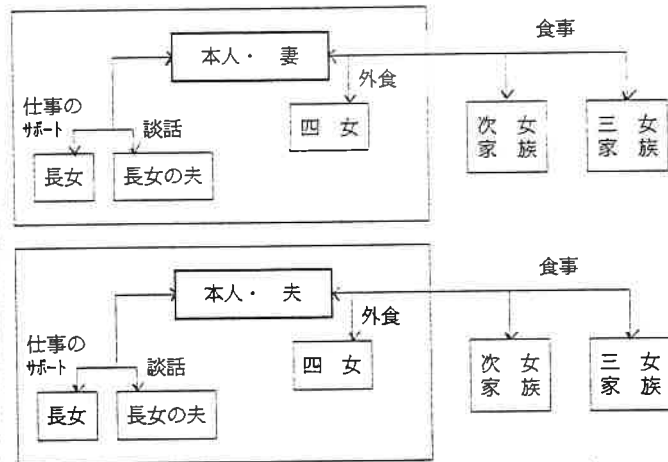
■今後の家族関係の展望

- ・子供世帯に依存したくないという意識が目立つ。
- ・「現状に満足(4名)」「特に望むことはなし(3名)」のように、今後、家族関係に対して夢を抱いているという傾向は見られない。

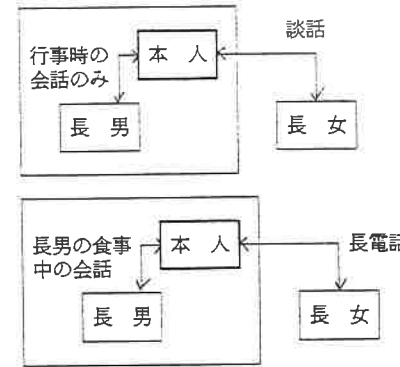
■家族間のコミュニケーションの状況



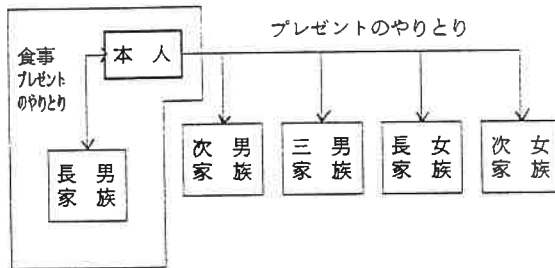
< 73才 単身男性 >



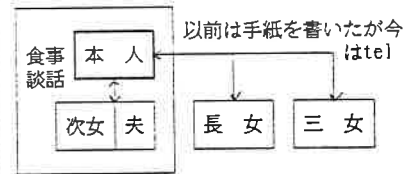
< 71才夫 (上段) 69才妻 (下段) >



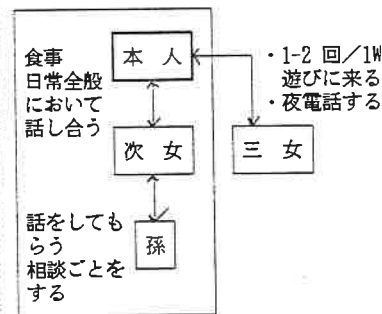
< 67才夫 (上段) 61才妻 (下段) >



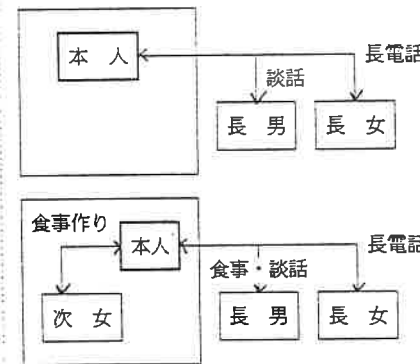
< 77才 単身男性 >



< 80才 単身女性 >



< 82才 単身女性 >



< 76才夫 (上段) 70才妻 (下段) >

・男性単身シルバーと女性単身シルバーを比較すると、女性の方が家族とのコミュニケーションが活発。
食事作り、食事の世話、食事中と、食を通じたコミュニケーションが目立つ。

・夫婦健在シルバーでも同様に、夫より妻の方がコミュニケーションが活発である。

・別居している子供との日常のコミュニケーションは電話が主である。近距離に在住している場合は、会話でコミュニケーションする。
また、子供たちの家族とのコミュニケーションは、食事会・記念日のプレゼント交換などイベント的に行われる。

■家族間の支援・依存関係

- ・シルバー側からの支援は、経済的援助が目立つ。物品による援助から、家・土地関係までと援助額の幅は広い。
- ・家族に依存している部分は、病気になるたときの世話、日常の食事、身の回りの世話が中心。ただし、夫婦健在シルバーの依存度は低く、食事、身の回りの世話を支援している状況である。
- ・孫に対しては、プレゼント・小遣いなどで、贈り物をする傾向が強い。

